

## 市民参加による淀川のイタセンパラ

### 野生復帰のための環境整備とその普及啓発

淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク

大阪府

はじめに

イタセンパラは淀川のシンボル・フィッシュと呼ばれているものの、外来魚の影響等により野生絶滅に近い状態に陥っている。そこで、平成 21 年度より淀川河川事務所と大阪府立環境農林水産総合研究所が共同で淀川へのイタセンパラ野生復帰プロジェクトを進めているが、外来種の駆除、水域の清掃、密漁の監視などに市民の参加が不可欠である。そのような中で、我々淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク（略称：イタセンネット）は流域の市民団体、企業、大学サークル、研究機関、行政を結集した市民の手によるイタセンパラの野生復帰を目指し、支援を行っている。本事業では、城北ワンド群における外来魚の駆除などの環境の整備と維持、地域住民への啓発と参加呼び掛けのためのシンポジウムや市民による放流式開催など、野生復帰プロジェクトへの支援・協力を行った

本事業期間中に当ネットワークに 4 団体が新規加入し、26 団体に増加した。淀川城北ワンド（大阪市旭区）において、平成 25 年 4 月から 11 月および平成 26 年 4 月から 6 月までおよそ月二回定期的に行っている外来魚駆除を兼ねた魚類調査および河川清掃には、延 940 人の市民参加が得られた。また、9 月 25 日には秋篠宮殿下のご臨席を賜り、「第 6 回淡水魚保全シンポジウム淀川大会」を開催した。シンポジウムには、全国各地から約 300 名の参加があり、ポスターによる研究発表も 45 課題行われた。

平成 25 年 10 月 10 日には、当ネットワークが外来魚の駆除を兼ねた魚類調査や河川清掃を続けてきた成果が認められ、大阪市旭区の城北ワンド群の一部（No. 34、No. 35 号ワンド）において、連携団体である国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所と大阪府立環境農林水産総合研究所がイタセンパラ親魚 500 尾を放流し、市民の手による野生復帰の実現に至った。放流式には、同じく連携団体の環境省近畿地方環境事務所長や大阪府副知事、大阪市旭区区長はじめ、当ネットワーク代表や地元小中学校が参加した。翌年春（平成 26 年 5 月）には、イタセンパラの稚魚が 600 尾確認され、自然繁殖していることが明らかとなった。

本報告書において、今回本事業で実施した内容と得られた成果について報告する。

## 1. 連携団体

当ネットワークは淀川流域の市民団体や企業、大学等の研究機関、行政で構成されており、現在NPO等（11団体）、大学サークル等（6大学8団体）、企業（2団体）、公設試験研究機関（1団体）、行政（4団体）の26団体で構成されている。構成メンバーは以下の通り。本事業期間中に4団体の新規団体の加入が得られた。

一般社団法人水生生物保全協会

琵琶湖を戻す会

淀川管内河川レンジャー

淀川水系イタセンパラ研究会

水生生物センター・サポートスタッフ

人を自然に近づける川いい会

NPO法人 nature works

淀川を守ろう会

NPO法人 エコネット近畿

公益財団法人 河川財団 近畿事務所（平成25年8月1日加入）

NPO法人 大阪府海域美化安全協会（平成26年1月10日加入）

大阪工業大学 城北水辺クラブ

大阪産業大学エコ推進プロジェクト

大阪産業大学 水生生物研究室

大阪商業大学 経済学部原田ゼミナール

大阪府立大学 キャンパスビオトープ研究会

大阪府立大学 里環境の会 OPU

摂南大学 エコシビル部

近畿大学 バスバスターズ（平成26年5月20日加入）

パナソニック エコリレー ジャパン

京都水族館

〈行政・公設試〉

環境省 近畿地方環境事務所

国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所

大阪府 環境農林水産部 みどり推進課

大阪市 旭区役所 市民協働課 にぎわい創出担当（平成25年12月26日）

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所

## 2. 活動内容

### (1) 城北ワンドにおける定例保全活動の実施

平成 25 年 4 月から 11 月および平成 26 年 4 月から 6 月まで、イタセンバラの野生復帰支援のための外来魚駆除を兼ねた魚類調査、外来植物の駆除および河川清掃を 14 回実施した。

日時：平成 25 年 4 月から 11 月および平成 26 年 4 月から 6 月の原則月 2 回。9 時から 12 時

場所：城北ワンド群（大阪市旭区）のうち No. 34、No. 35 号ワンド

実施日と参加人数は以下の通り

平成 25 年 7 月 6 日（土）	30 名
7 月 20 日（土）	330 名：
淀川河川事務所主催「淀川”わんど”クリーン大作戦」との同時開催	
8 月 3 日（土）	70 名：河川レンジャーのイベントと共催
8 月 18 日（日）	30 名
9 月 7 日（土）	25 名
9 月 15 日（日）	150 名：
大阪生物多様性保全NW、大阪市環境局、旭区役所と共催の「城北ワンド観察会」	
10 月 5 日（土）	45 名
【 10 月 10 日（木）	イタセンバラ放流式 】
11 月 2 日（土）	30 名
11 月 17 日（日）	40 名
平成 26 年 4 月 5 日（土）	40 名
4 月 20 日（日）	50 名
5 月 18 日（日）	30 名
6 月 7 日（土）	40 名
6 月 15 日（日）	30 名
合計	940 名



調査風景、30mの地曳網を用いて魚類を採集



採集した魚類；左は在来種、右は外来種（ブラックバスとブルーギル）



在来種：左はナマズ（大阪府準絶滅種）、右はカワヒガイ（大阪府絶滅危惧Ⅰ類）



イタセンバラ：左、放流後に採集した個体、右は自然繁殖し、貝から浮出した仔魚

(2) 淀川城北ワンド群イタセンパラ放流式に協力

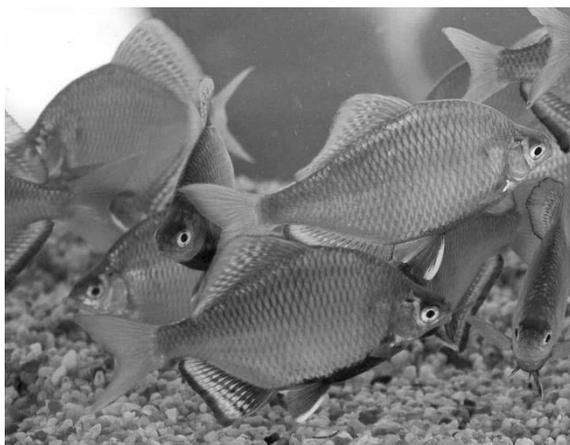
日時：平成 25 年 10 月 10 日 16 時から 17 時

場所：城北ワンド群（大阪市旭区）のうち No. 34、No. 35 号ワンド

参加者：120 名

主催：淀川河川事務所・大阪府立環境農林水産総合研究所

平成 25 年 10 月 10 日に当ネットワークが定例保全活動が続けてきた城北ワンド群（大阪市旭区）のうち No. 34、No. 35 号ワンドにおいて、大阪府立環境農林水産総合研究所で育成したイタセンパラ 500 尾を放流する「淀川城北ワンド群イタセンパラ放流式」が行なわれた。環境省近畿地方環境事務所長、国土交通省近畿地方整備局河川部長、大阪府副知事、旭区役所区長をはじめ当ネットワークの代表者、地元の小中学校の児童生徒によりイタセンパラの放流が行なわれた。



放流したイタセンパラと（左）、イタセンネット代表者による放流

(3) 「淀川城北ワンドクリーン大作戦」を実施

日時：平成 26 年 3 月 9 日（日）9 時から 12 時

場所：城北ワンド群（大阪市旭区）のうち No. 34、No. 35 号ワンド

参加者：80 名

主催：淀川河川事務所、淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク

淀川河川事務所による水制工改修工事に伴い、イタセンパラを放流したワンドの水位が下がったことから、ワンド内のゴミ、杭などを取り除く清掃作業を行った。清掃後、水が引いたワンドで地曳網による調査を行い、多数の大型のコイやフナを確認した。



(4) 第6回淡水魚保全シンポジウム淀川大会

日時：2013年9月25日(水) 10時から20時

場所：OITホールおよび研修棟(常翔学園大阪工業大学：大阪市旭区大宮5-16-1)

主催：淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク、淡水魚保全研究会

協力：河川財団、大阪自然環境保全協会、常翔学園大阪工業大学、大阪生物多様性保全ネットワーク、淀川イタセンパラ検討会

後援：京都府、大阪市、大阪市旭区役所、守口市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、守口市教育委員会、生き物文化誌学会、応用生態工学会、日本魚類学会、ヒトと動物の関係学会

テーマ：～地域でまもり、みんなで育む淡水魚～

開催主旨：わが国に生息する淡水・汽水魚類の4割以上の種に絶滅のおそれがあるといわれます。それには生息環境の変化や外来種から受ける影響などさまざまな要因があることはよく知られる通りです。かつて豊かな淡水魚類相を誇った淀川水系においても関係者・機関の努力にも関わらず、国の天然記念物イタセンパラ、アユモドキをはじめ、多種の淡水魚類の危機的状況が続いており、その回復は容易ではありません。一方、淀川水系では一度姿を消したイタセンパラについて、一昨年の秋、二度目の再導入が行われ、昨春に仔稚魚が、夏には順調に成長を続けた成魚が確認されたという明るい話題もあります。淡水魚保護の長い歴史を持つ淀川河畔城北に、国や自治体等の関係行政機関・部局、魚類学・生態学・河川工学等の研究者、および一般市民が集い、タナゴ類をはじめとする淡水魚の保全を目標に、各々の果たすべき役割ならびに協働について考えます。



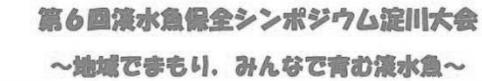
日時：2013年9月25日(水) 10:00 受付開始 10:30 - 20:00
会場：OITホールおよび研修棟(常翔学園大阪工業大学) (大阪市旭区大宮5-16-1)

主旨：わが国に生息する汽水・淡水魚類の4割以上の種に絶滅のおそれがあるといわれます。それには生息環境の変化や外来種から受ける影響などさまざまな要因があることはよく知られる通りです。かつて豊かな淡水魚類相を誇った淀川水系においても関係者・機関の努力にも関わらず、国の天然記念物イタセンパラ、アユモドキをはじめ、多種の淡水魚類の危機的状況が続いており、その回復は容易ではありません。一方、淀川水系では一度姿を消したイタセンパラについて、一昨年の秋、二度目の再導入が行われ、昨春に仔稚魚が、夏には順調に成長を続けた成魚が確認されたという明るい話題もあります。淡水魚保護の長い歴史を持つ淀川河畔城北に、国や自治体等の関係行政機関・部局、魚類学・生態学・河川工学等の研究者、および一般市民が集い、タナゴ類をはじめとする淡水魚の保全を目標に、各々の果たすべき役割ならびに協働について考えます。

Table with 2 columns: Time slots and Program items. Includes sessions like '1. ポスター発表' and '2. 開会主旨説明'.

主催：淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク、淡水魚保全研究会
協力：公益財団法人 淀川財団、公益社団法人 大阪自然環境保全協会、学校法人 常翔学園大阪工業大学
後援：京都府、大阪市旭区役所、守口市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、守口市教育委員会、生き物文化誌学会、応用生態工学会、日本魚類学会、ヒトと動物の関係学会
参加費：500円(清泉会費を含む)
参加申込：2013年8月15日必着
ポスター発表申込締切：2013年8月15日
お問い合わせ：大阪工業大学都市子午線工学部環境研究室

本シンポジウムは公益連携型カラハモニストファンドの協力を受けています

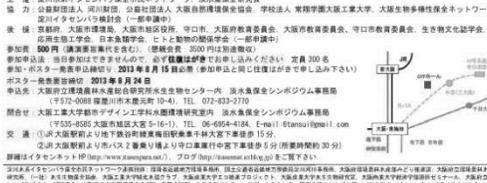


日時：2013年9月25日(水) 10:00 受付開始 10:30 - 20:00
会場：OITホールおよび研修棟(常翔学園大阪工業大学) (大阪市旭区大宮5-16-1)

主旨：わが国に生息する汽水・淡水魚類の4割以上の種に絶滅のおそれがあるといわれます。それには生息環境の変化や外来種から受ける影響などさまざまな要因があることはよく知られる通りです。かつて豊かな淡水魚類相を誇った淀川水系においても関係者・機関の努力にも関わらず、国の天然記念物イタセンパラ、アユモドキをはじめ、多種の淡水魚類の危機的状況が続いており、その回復は容易ではありません。一方、淀川水系では一度姿を消したイタセンパラについて、一昨年の秋、二度目の再導入が行われ、昨春に仔稚魚が、夏には順調に成長を続けた成魚が確認されたという明るい話題もあります。淡水魚保護の長い歴史を持つ淀川河畔城北に、国や自治体等の関係行政機関・部局、魚類学・生態学・河川工学等の研究者、および一般市民が集い、タナゴ類をはじめとする淡水魚の保全を目標に、各々の果たすべき役割ならびに協働について考えます。

Table with 2 columns: Time slots and Program items. Includes sessions like '1. ポスター発表' and '2. 開会主旨説明'.

主催：淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク、淡水魚保全研究会
協力：公益財団法人 淀川財団、公益社団法人 大阪自然環境保全協会、学校法人 常翔学園大阪工業大学、次生生物多様性保全ネットワーク
後援：京都府、大阪市旭区役所、守口市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、守口市教育委員会、生き物文化誌学会、応用生態工学会、日本魚類学会、ヒトと動物の関係学会
参加費：500円(清泉会費を含む)
参加申込：2013年8月15日必着
ポスター発表申込締切：2013年8月15日
お問い合わせ：大阪工業大学都市子午線工学部環境研究室



本シンポジウムは公益連携型カラハモニストファンドの協力を受けています

シンポジウムのチラシ、ポスター

プログラム :

- 10:00- 受付開始
- 10:30-12:00 1. ポスター発表 1
- 13:00-15:00 2. 開会、主旨説明 大阪府立富田林高等学校 小川力也  
歓迎挨拶 大阪工業大学学長 井上正崇  
基調講演 大阪教育大学名誉教授 長田芳和  
話題提供 1 近畿大学農学部 細谷和海  
話題提供 2 手賀沼水生生物研究会 半沢裕子  
話題提供 3 大阪工業大学 綾 史郎
- 15:15-16:20 3. パネルディスカッション～淡水魚保護文化を目指して～  
コーディネーター 岐阜経済大学 森 誠一  
パネラー 近畿地方整備局 小俣 篤,  
大阪市立城陽中学校 河合典彦,  
琵琶湖を戻す会 高田昌彦  
閉会挨拶 東京水産大学名誉教授 多紀保彦
- 16:50-17:30 4. 淀川城北ワンド群視察
- 17:40-18:10 5. ポスター発表 2
- 18:10-20:00 6. 懇親会  
ポスター発表 : 45 題

- P1 県指定天然記念物「ムサシトミヨ生息地」の現状変更に伴う生息環境復元状況について  
.....金澤 光
- P2 パナソニックエコリレー関西広域環境保全活動 BOYS クリーンネットワーク.....山口 進
- P3 木曾川イタセンバラの域外保全 -動物園・水族館での取り組み-.....池谷幸樹
- P4 岩手県奥州市の農業水域におけるタナゴ類の生息現況.....角田裕志, 満尾世志人
- P5 魚絵を描く楽しさと魅力.....小村一也, 石山郁慧
- P6 東日本大震災後の湧水生態系の回復～岩手県大槌町のトゲウオ科イトヨを中心に～  
.....久米 学, 北野 潤, 西田翔太郎, 鷺見哲也, 森 誠一
- P7 アユモドキを保全することの難しさ.....阿部 司, 阿部まりあ, 小林一郎
- P8 小学校で天然記念物アユモドキの人工繁殖にとりくむということ .....森 千恵
- P9 京都市・久我水路における魚類相とその季節変化.....田中和大, 川瀬成吾, 細谷和海
- P10 オムロン野洲事業所ビオトープ『ぼてじゃこの池』におけるイチモンジタナゴの保全活動  
.....櫻井一彦
- P11 福井県中池見湿地に生息するアブラボテの現状と保護対策  
.....中村あづ紗, 山野ひとみ, 細谷和海, 北川哲郎, 小田優花, 増田 茂
- P12 パラタナゴに対するホルモン剤の好適投与時期の検討.....小田優花, 北川哲郎, 細谷和海
- P13 淀川水系固有種ヨドゼゼラの生息状況.....川瀬成吾, 田中和大, 木村亮太, 細谷和海
- P14 氷見市万尾川におけるイタセンバラの成長と利用環境.....西尾正輝, 山崎裕治
- P15 ネコギギ保護はじめ.....後藤健宏
- P16 木曾川イタセンバラ保護協議会の活動について.....田島 健

- P17 岐阜県海津市南濃町津屋地区におけるハリヨの生態調査  
 ・ ……加藤大暉, 菱田裕希, 大原早瑛, 青木大志, 高野和臣, 森田健介, 安藤優希, 小倉早紀
- P18 奈良県産ニッポンバラタナゴの生息池における保全  
 ……杉本智嗣, 中山卓弥, 角田竜一, 高尾将希, 水本勝祐, 北川忠生
- P19 淀川水系でみられたヒメダカによる遺伝的攪乱  
 ……中尾遼平, 川瀬成吾, 田中和大, 細谷和海, 北川忠生
- P20 木曽川のワンドの水理特性と水質との関係 ……中西玄樹, 松本嘉孝, 田中貴幸
- P21 木曽川中下流域におけるワンド・タマリの空間水質分布 ……松本嘉孝, 中西玄樹, 佐川志朗
- P22 イトヨの生態～本願清水の水中写真～ ……長谷川幸治, 泰 康之
- P23 木曽川中流部におけるワンド環境改善の取組 ……西尾隆司
- P24 富山県氷見市に生息するイタセンバラの集団存続可能性解析 ……山崎裕治, 西尾正輝
- P25 河川魚道の機能回復事業について ……塩澤哲也
- P26 淀川八雲ワンド周辺におけるイシガイの生息状況 ……木邑聡美
- P27 近畿地方唯一のアユモドキ生息地（京都府亀岡市）における大規模専用球技場の建設計画  
 ……日本魚類学会自然保護委員会
- P28 楠葉ワンドの復元とその生物環境 ……佐藤寛容, 綾 史郎, 山野上祐司, 中西史尚
- P29 小河川最上流域におけるホトケドジョウの移動と生息状況  
 ……満尾世志人, 角田裕志, 遊磨正秀
- P30 淀川城北ワンドにおける外来魚駆除効果  
 ……鶴田哲也, 木邨建志, 中埜将太, 山下幸裕, 和田恭典, 内藤 馨, 金丸善紀
- P31 淀川におけるイタセンバラの再導入  
 ……小川力也, 綾 史郎, 上原一彦, 河合典彦, 竹林洋史, 竹門康弘, 田井中靖久
- P32 石川（大阪府）の魚類相について ……野口鷹次郎, 辻中 光, 右衛門佐尚暉, 松村拓海
- P33 水圏環境教育によるムサシトミヨ保護活動のための実践教育 ……荒井大樹, 佐々木剛
- P34 赤川・城北ワンド周辺の環境再生対策と生息魚類の変化  
 ……山野上祐司, 綾 史郎, 佐藤寛容, 内藤 馨
- P35 市民団体「水辺に親しむ会」が記録した淀川左岸線水路の魚類相  
 ～1999年から2012年の記録～ ……則竹 賢, 山本義彦, 新城賢浩
- P36 芥川「やさしい」川づくり ……山崎文男, 田口圭介, 岡 信一
- P37 タナゴ類、イシガイ科二枚貝の生息に好適な冠水頻度のたまりの抽出に関する  
 航空レーザ計測データの活用について ……池田欣子, 西井一浩, 竹門康弘, 木瀬龍也
- P38 アユの鱗紋分析による簡便で経済的な由来分析 ……池田欣子, 西井一浩, 竹門康弘, 濱田 博
- P39 ニッポンバラタナゴ保護池の定期調査 ……安達和馬, 梅本健琉
- P40 アオコの凝集・毒性の除去 ……古原 翔, 安達和馬, 松村海斗
- P41 大阪経済法科大学 ふれあい池におけるニッポンバラタナゴの保護と  
 ”ドビ流し”（池干し）の効果 ……田村和也, 白川雄基, 加納義彦
- P42 淀川の異なる流れ場におけるワンド整備後の生態系の変化とその課題 ……中西史尚, 井上勇樹
- P43 淀川城北ワンド群外来生物駆除作戦 ……内藤 馨, 上原一彦, 辻野耕實
- P44 水道記念館の水族飼育展示の意義 ……岡 秀郎, 栗谷 至, 金谷 薫
- P45 桂川下流部河道掘削に伴うワンド整備について ……朝長哲也, 比留木敬

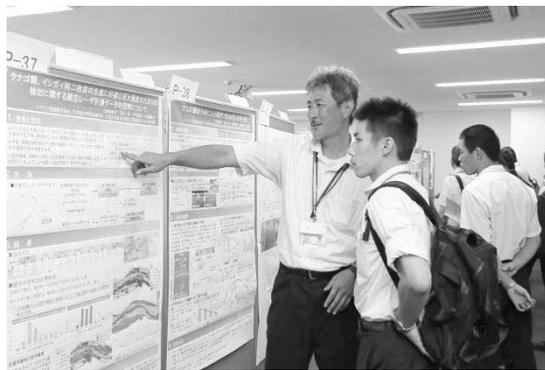
本シンポジウムでは、淡水魚に関する学会や大学、全国各地の市民団体や個人など約 300 名が参加した。また、秋篠宮殿下のお臨席を賜り、多くのポスター発表者が殿下と意見交換されるとともに、懇親会では出席された方々と御歓談された。



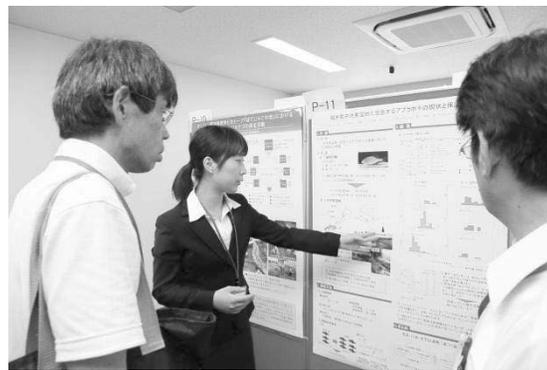
シンポジウム会場



ポスターセッション



ポスターセッション



ポスターセッション



挨拶 大阪工業大学 井上学長



基調講演 長田先生



話題提供 細谷先生



話題提供 半沢氏



話題提供 綾先生



パネルディスカッション



コーディネーター 森先生



パネラー 河合氏 (左)、高田氏 (右)



パネラー 小俣氏 (右)



質疑 川那部浩哉 京都大学名誉教授



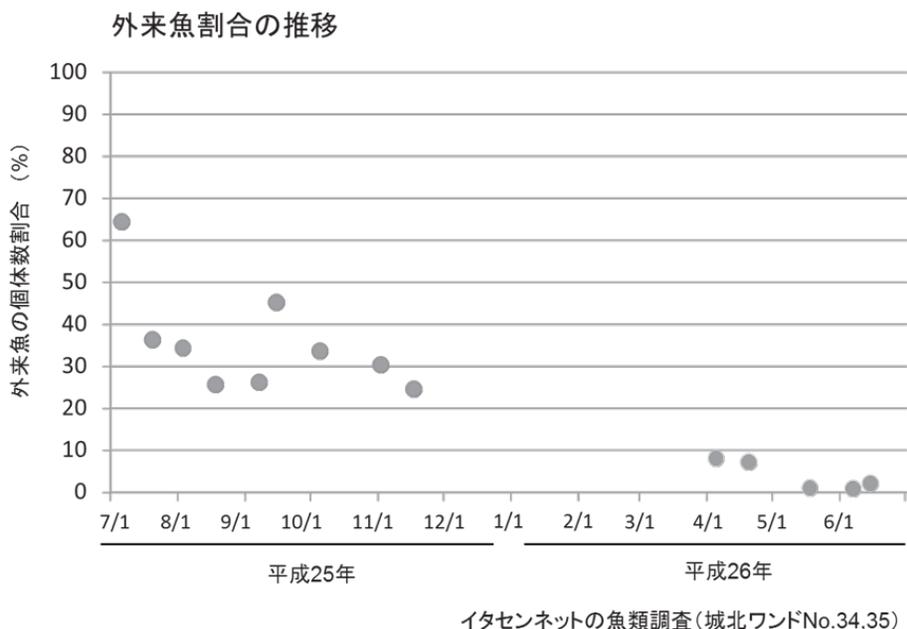
挨拶 多紀先生



城北ワンド群視察

### 3. 活動総括

城北ワンドにおける定例調査については、連携団体の大阪府立環境農林水産総合研究所をはじめ大阪産業大学などが技術支援を行い、ワンド内の魚類相について詳細なデータを収集することが出来た。事業期間中における外来魚（ブラックバス、ブルーギルなど）の個体数割合の変化を下図に示した。



活動の継続に伴って、外来魚の割合は徐々に低下し、平成25年8、9月頃には30%前後まで減少した。また、シロヒレタビラ、カネヒラ、コイ、フナ類、ニゴイ、オイカワ、ハス、コウライモロコ、タモロコ、モツゴ、カワヒガイ、カマツカ、シマヒレヨシノボリ、ヨドゼゼラ、ナマズの15種類の在来種が確認されるようになった。これを受け、淀川河川事務所と大阪府立環境農林水産総合研究所は、外来魚の悪影響が軽減されたとの判断により、イタセンパラの野生復帰を公開で行うことを決定した。そして、10月10日に市民の手によってイタセンパラ親魚500尾の放流が行われた。放流されたイタセンパラは無事繁殖し、翌年春（平成26年5月）に、約600尾の稚魚が確認された（淀川河川事務所調べ）。遊泳力の乏しい稚魚期のイタセンパラは、外来魚の食害により大きな影響を受けるが、現在（5、6月）、外来魚の割合は、数%まで低下しており、ほとんど悪影響を受けない状態まで外来魚割合を抑え込むことに成功している。

9月25日に開催した「第6回淡水魚保全シンポジウム淀川大会～地域でまもり、みんなで育む淡水魚～」では、秋篠宮殿下にご臨席を賜り、300名の参加者を得ることができた。講演やポスターセッションを通して、全国各地で活動している市民団体の保全活動の事例や、外来魚の防除、希少種の保全技術に関する話題を提供してもらった。パネルディスカッションでは「淡水魚保護文化を目指して」と題して、希少生物をシンボルとした保全活動の取り組みは生物多様性の保全のみならず、地域社会の再生・活性化に貢献できることも言及され、行政と市民団体の協働による地域づくりの基本的な考え方が示された。

以上のように、これらの活動を通して淀川でも地域住民の関心はますます高まりつつあ

り、毎月行っている定期調査や外来魚駆除活動の参加者数も増えている。また、地元の大阪市旭区役所では、現在、イタセンパラを市の魚に制定する検討を始めるとともに、イタセンパラのイメージキャラクターの公募を行っている。イタセンパラをシンボルとし、地域に根差した生物多様性保全の機運が高まりつつあることから、本事業で得られた成果は極めて高いものと考えられる。

